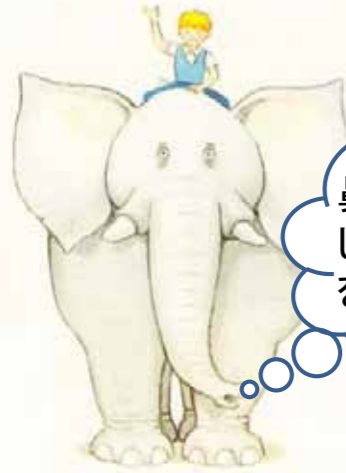


耳鼻咽喉科

鼻腔粘膜には吸気を**除塵 加湿 加温**する働きがあります。鼻は吸気を浄化して気管や肺に送っているのです。このため鼻腔の環境が健やかであることは、肺などの下気道を健やかに保つ基本です。また鼻閉は睡眠時無呼吸などの一因となり、心疾患などの遠因となります。



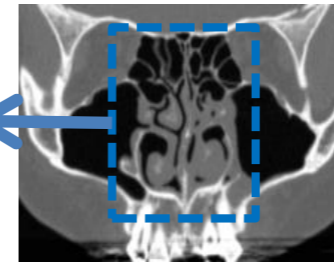
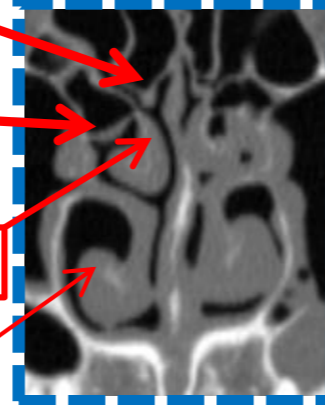
鼻はどのような働きをしているのでしょうか。鼻をめぐるお話です。

上鼻道

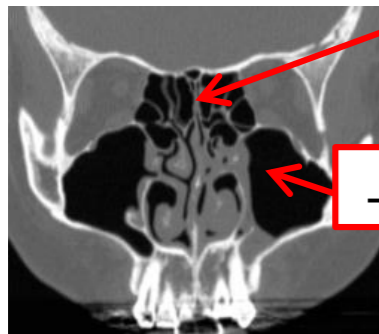
中鼻道

中甲介

下甲介



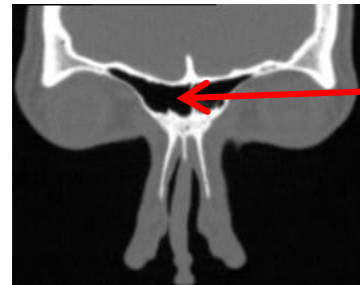
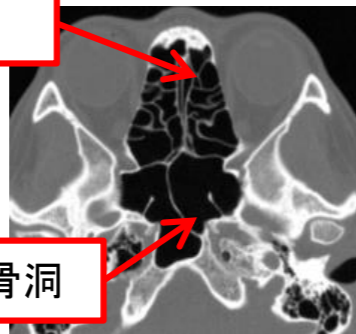
鼻腔内には下鼻甲介、中甲介、上甲介という突起が存在しています。鼻腔粘膜の表面積が広がりますこれらの突起と突起との間の隙間に副鼻腔が開洞し、副鼻腔内の貯留液が鼻腔に排泄されます。



篩骨洞

上顎洞

蝶形骨洞



前頭洞



鼻腔周囲の顔の骨には副鼻腔という空洞が複数あり、全て鼻腔と交通しています。副鼻腔内は鼻腔と同様に粘膜で覆われており、分泌がありますが、正常な状態では、健やかに鼻腔に排泄されています。

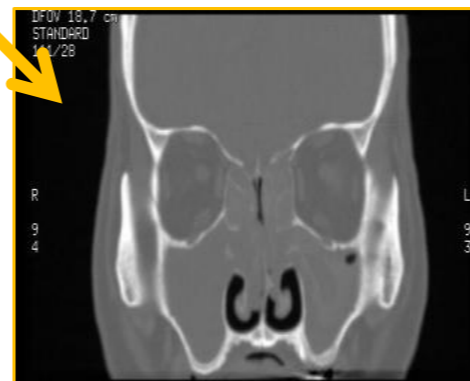
副鼻腔とは？

慢性副鼻腔炎 鼻茸とは

この副鼻腔の粘膜に炎症が生じ、粘膜が厚くなりますと、副鼻腔の鼻腔への排泄孔が閉塞して炎症の遷延化が生じます。また副鼻腔排泄孔が開く中鼻道や上鼻道に鼻茸(鼻ポリープ:粘膜の炎症の産物)が生じると、副鼻腔の排泄は更に不良となり、改善が困難となります。



鼻茸



副鼻腔炎の原因としては細菌感染 真菌 アレルギー 歯原生などがあります。



慢性副鼻腔炎の治療

薬での治療:

風邪症状などに伴い生ずる通常の細菌性副鼻腔炎の場合、抗生剤が投与されます。慢性化した副鼻腔炎に関してはマクロライドという種類の抗生剤を少量で長期間(1か月~3か月)内服していただくことがあります。

アレルギーが原因となっている場合には抗アレルギー剤も併用となります。

外来処置:

鼻内をきれいに処置してから、ネブライザーにて薬剤を副鼻腔に届く小粒子として投与します。

上顎洞穿刺洗浄:

上顎洞に鼻腔から直接針を刺し、その針穴を通して生理的食塩水にて副鼻腔内を洗浄して洞内に抗生剤を直接注入する治療法です。

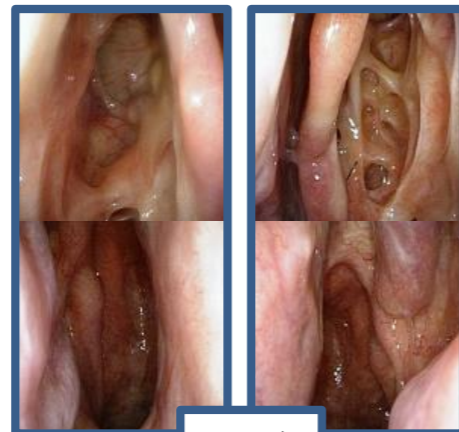
手術的加療:

以上のような保存的加療を行っても改善しない場合。もしくは鼻茸が生じて副鼻腔内の換気改善が望めないと判断される症例は手術適応となります。

内視鏡下副鼻腔手術



術前



術後

現在の副鼻腔炎に対する手術は、図のような器具を用い、鼻内を内視鏡下に観察しながら行います。マイクロデブリッダーにて鼻茸を吸引しながら細かく砕いて切除した後、其々の副鼻腔の隔壁を除去して、副鼻腔を広く鼻内に開放し、副鼻腔に貯留する分泌物が健やかに鼻内に排泄できる形態に鼻内を整える手術となります。

排泄が促された副鼻腔の粘膜は、術後数カ月を経過すると、図のように正常化してきます。



マイクロデブリッダー本体



マイクロデブリッダー先端



先端に回転する刃があり、鼻茸を吸引して吸引した部分のみ切除となります。



鼻内視鏡

スギ花粉症

舌下免疫療法 が始まります。

現在、花粉症に対しては生じてしまう症状に対して抗アレルギー剤を内服して症状を抑えて行く治療が主流です。

アレルギー免疫療法とは。アレルギーの原因となる物質を少ない量から一定間隔で徐々に濃度を上げながら体内に入れて、過敏に反応しなくなるようにする治療法です。今まではアレルギーエキスを皮下注射にて投与としておりましたが、**口腔内の粘膜に投与する薬剤が使用開始となります。**自宅での使用が可能となります。全ての方に適応となる訳ではありませんのでご相談下さい。

